

ネットワークプロテクト 設定ガイド

Version7.6.9~

目 次

お使いになる前に

動作環境

1 プロテクトドライバのインストールの確認

2 ファイアウォール設定の確認

2-1 ファイアウォール設定確認方法

2-1-1 WindowsVista / Server2008 の場合

2-1-2 Windows7 / Server2008R2 の場合

2-1-3 Windows8 / 8.1 / Server2012 / 2012R2 の場合

2-1-4 Windows10 の場合

2-2 WINDOWS ファイアウォール以外の場合・・・

3 ネットワークプロテクトの使用

3-1 ネットワークプロテクトへの接続（初回起動時）

3-2 プロテクト接続方法の変更

4 ネットワークプロテクトユーティリティ

4-1 サーバー監視モニタツール

4-2 ライセンスの取り消し

4-3 サーバープログラム

5 困ったときは・・・

5-1 困ったときのチェック方法

お使いになる前に

このガイドは、ネットワークプロテクトを使用、設定するときなどにお使い下さい。
使用前に、動作環境をご確認下さい。

動作環境

◆ネットワークプロトコル

「TCP/IP」が動作するネットワーク環境が必要です。
（「NetBEUI」・「IPX/SPX」には対応していません）

◆本体


上記ネットワークプロトコルが動作するコンピュータ。
※ネットワークプロテクトを取り付けるサーバー及びクライアントコンピュータが、同一LAN（Local Area Network）環境にあり、それぞれのコンピュータが相互にアクセスできる状態にあること。
※但し、他のコンピュータからのプロテクト確認の為、常時起動している必要があります。

◆必須ソフトウェア

ネットワークプロテクトを取り付けるコンピュータに、プロテクトを認識させる【プロテクトドライバ】と【サーバープログラム】をインストールする必要があります。
※ローカルコンピュータにはインストールの必要はありません。
※ソフトウェアは本ソフトインストールCDに添付しております
※プロテクトドライバのセットアップ方法は、『インストール手順』もしくは『セットアップガイド』を参照ください。

◆動作保証ネットワーク体系


動作を保証するネットワーク体系は、LAN（Local Area Network）のみです。
WAN（Wide Area Network）環境には対応していません。

 このマークは、注意・警告事項のマークです。よくお読みください。

1. プロテクトドライバのインストールの確認

1 プロテクトドライバのインストールの確認

プロテクトドライバのインストールがお済みでない場合は、『プロテクトドライバセットアップガイド』を参考にプロテクトドライバをインストールします。

 インストール作業で、以下の3種類のソフトウェアがインストールされます。




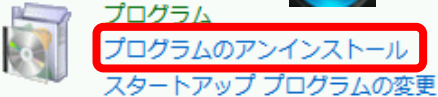
1. プロテクト用ドライバ
2. サーバープログラム（ライセンス数を管理する常駐プログラム）
3. サーバー監視モニタツール

【インストールが完了しているかどうかの確認方法】




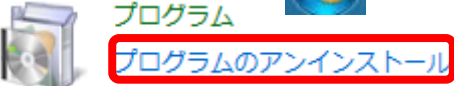
 OSにより、画面や名称の違うところがあります。

1. 下記の手順でインストールされているプログラムの一覧を開きます。

■ Windows Vista / Server2008 の場合

Windows Vista/ Server2008 の場合は、タスクバーの  をクリックし、
[コントロールパネル]の  **プログラム**  を開きます。
 **プログラムのアンインストール**
スタートアッププログラムの変更



■ Windows 7 / Server2008R2 の場合

Windows 7 / Server2008R2 の場合は、タスクバーの  をクリックし、
[コントロールパネル]の  **プログラム**  を開きます。
 **プログラムのアンインストール**

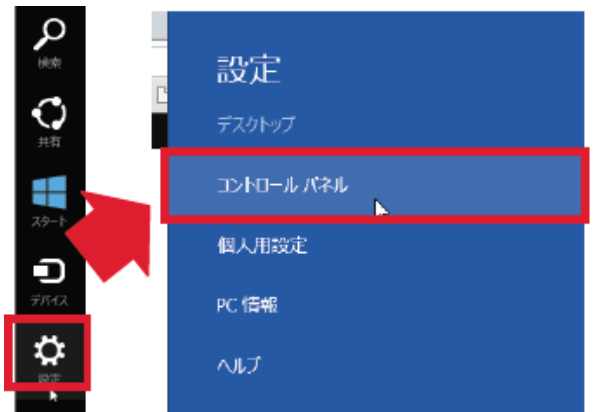
■ Windows 8/ 8.1/ Server2012/ 2012R2 の場合

Windows 8 / Server2012 の場合は、
画面右上や右下にカーソルを移動で表示される
チャームバーから[設定]をクリックし、
[設定]-[コントロールパネル]をクリックします。

次に[コントロールパネル]の

 **プログラム**
 **プログラムのアンインストール**

をクリックします。

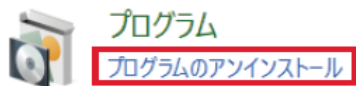


■ Windows 10 の場合

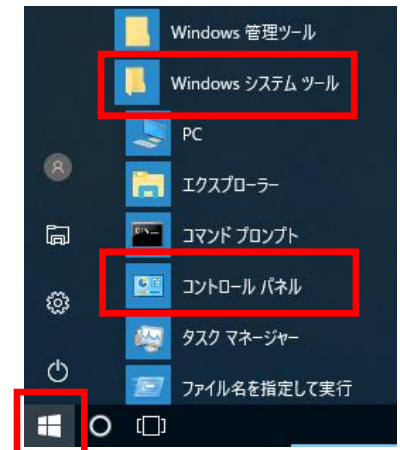
Windows 10 の場合は、
スタートメニューの右クリックで表示されるメニューから

[Windows システムツール]- [コントロールパネル]

をクリックし、次に[コントロールパネル]の

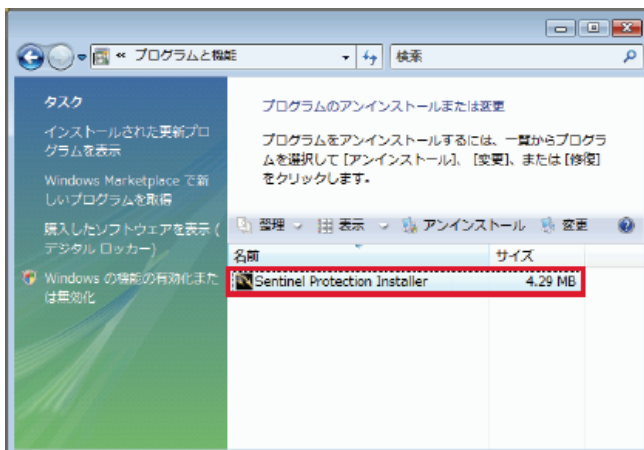


をクリックします。

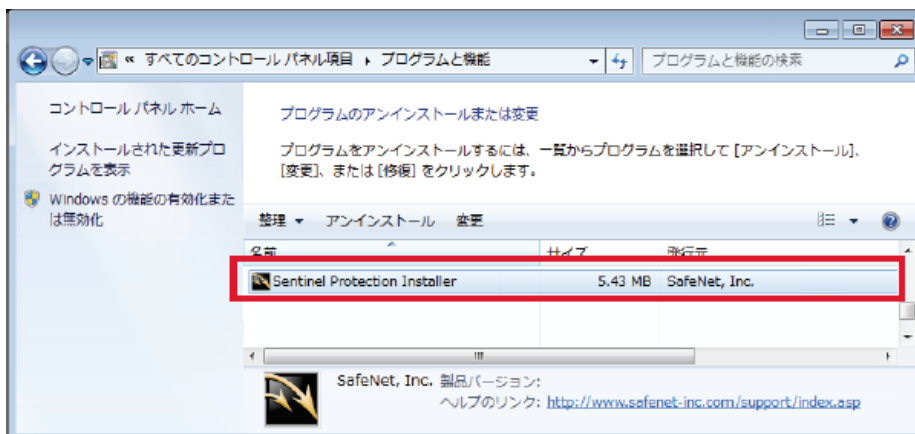


2. ”Sentinel Protection Installer 7.6.9”が加わっていることを確認します。

■ Windows Vista / Server2008 の場合



■ Windows 7 / Server2008R2 の場合




■ Windows 8 / 8.1 / Server2012 / 2012R の場合



■ Windows 10 の場合



3. 確認後、ウィンドウ右上の  でウィンドウを閉じます。

2. ファイアウォール設定の確認



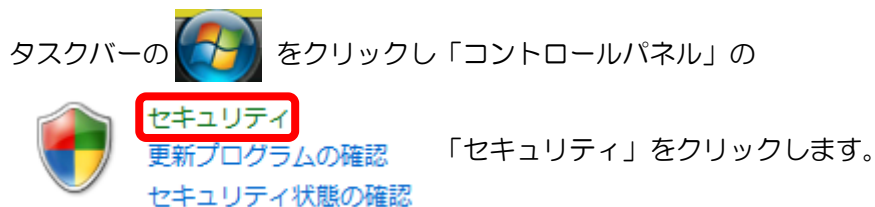
2 ファイアウォール設定の確認

プロテクトドライバのインストール時にネットワークプロテクトで使用するネットワーク上のポートをファイアウォール機能でブロックしないように設定が追加されますが、その設定が有効になっているかの確認を行います。

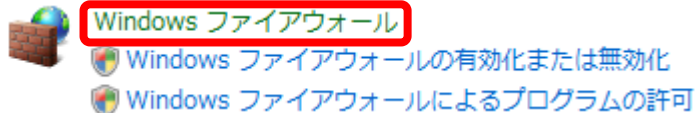
2-1 ファイアウォール設定確認方法

2-1-1 WindowsVista / Server2008 の場合

1. 【コントロールパネル】の【Windows ファイアウォール】を開きます。



セキュリティの項目から、「Windows ファイアウォール」をクリックします。



2. 「設定の変更」をクリックします。

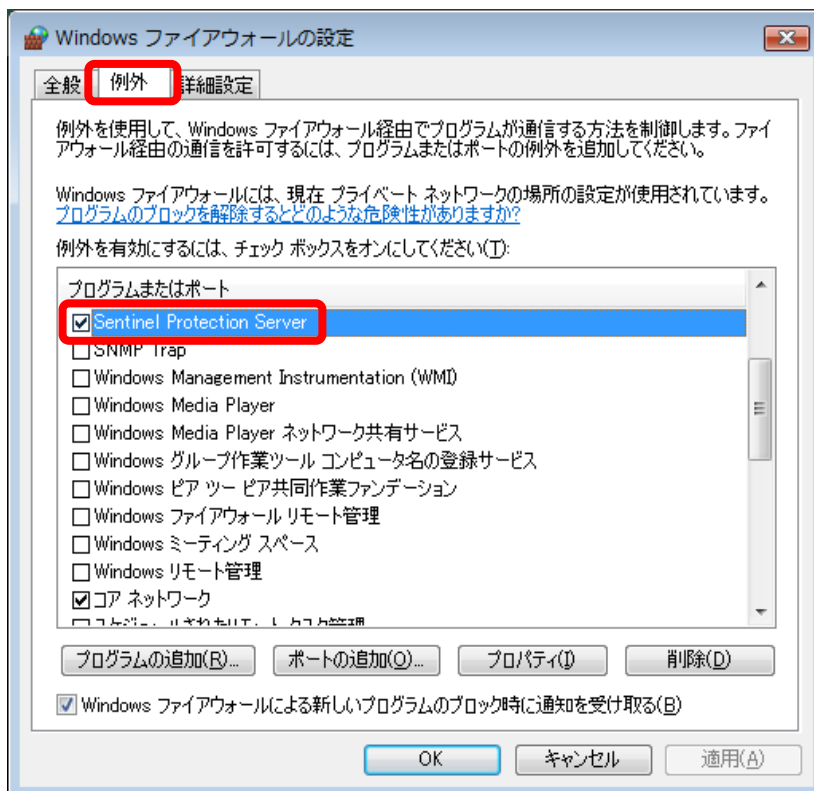


■Windows Vista の場合は、右記画面が表示されます。

「続行(C)」を選択してください。



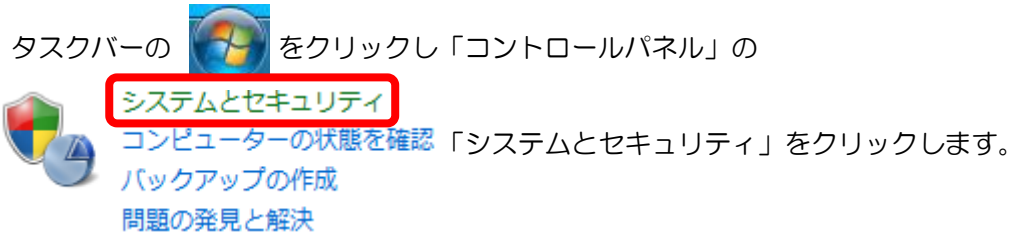
3. 【例外】タブに『Sentinel Protection Server』のチェックボックスにチェックが入っているか確認をします。



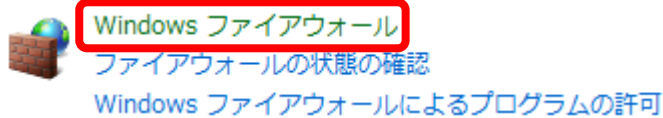
 チェックが入っていない場合は、チェックを入れてください。

2-1-2 Windows7 / Server2008R2 の場合

1. 【コントロールパネル】の【Windows ファイアウォール】を開きます。



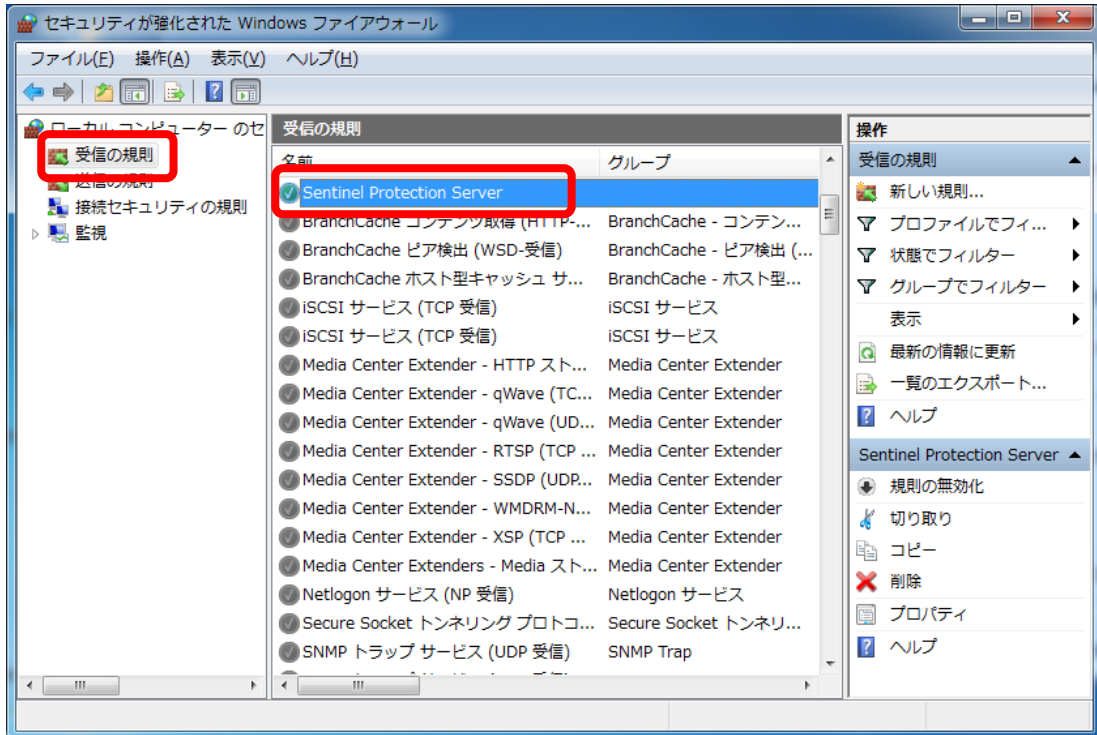
セキュリティの項目から、「Windows ファイアウォール」をクリックします。




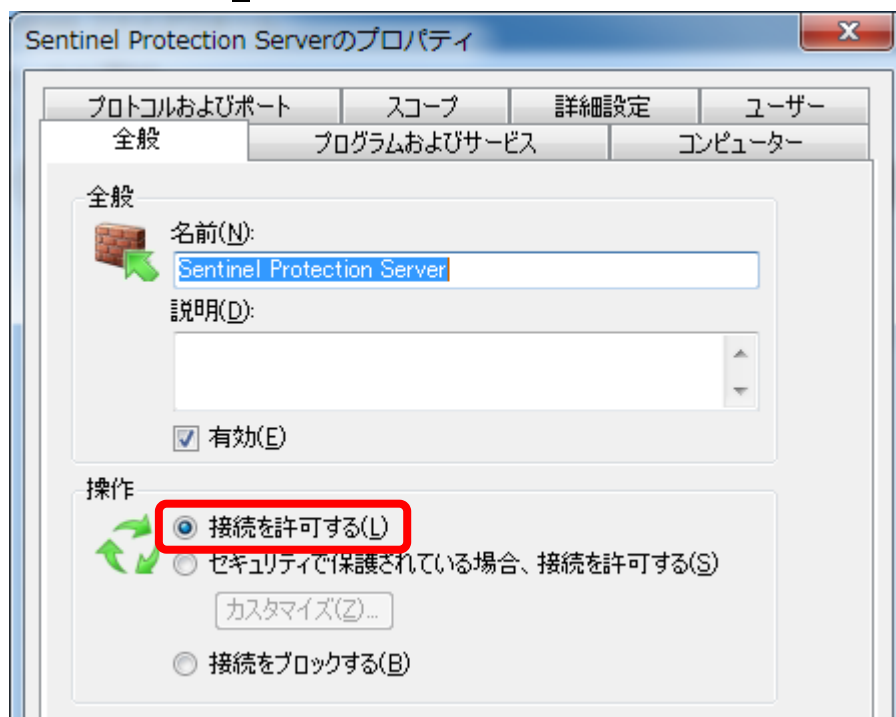
2. 「詳細設定」をクリックします。



- 3.** 【受信の規則】に『Sentinel Protection Server』の文字の右のアイコンが
 マークになっているか確認をします。



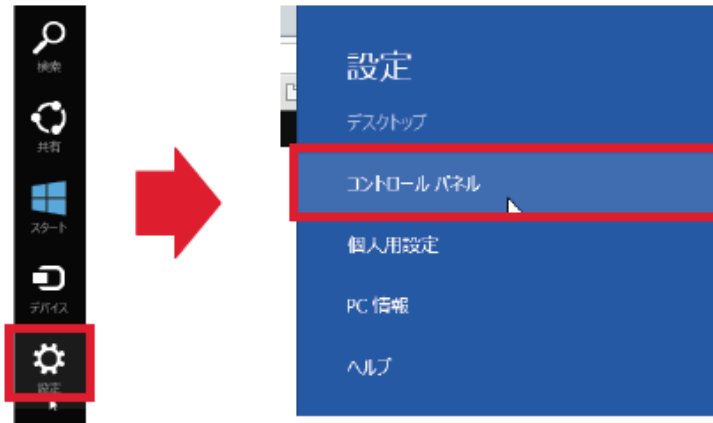
-  チェックが入っていない場合は、ダブルクリックで設定画面を開き
 「接続を許可する(L)」を選択して、「OK」ボタンをクリックします。



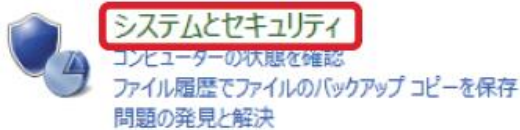
2-1-3 Windows8 / 8.1 / Server2012 / 2012R2 の場合

1. 【コントロールパネル】の【Windows ファイアウォール】を開きます。

① コントロールパネルを開くには、画面右上や右下へのカーソルを移動で表示の[チャームバー]から[設定]をクリック、次に表示される設定画面にて[コントロールパネル]をクリックします。



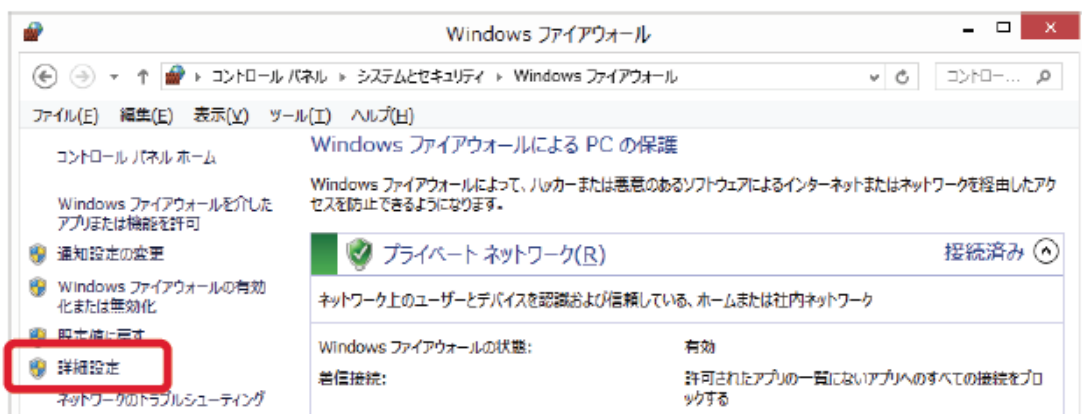
「システムとセキュリティ」をクリックします。



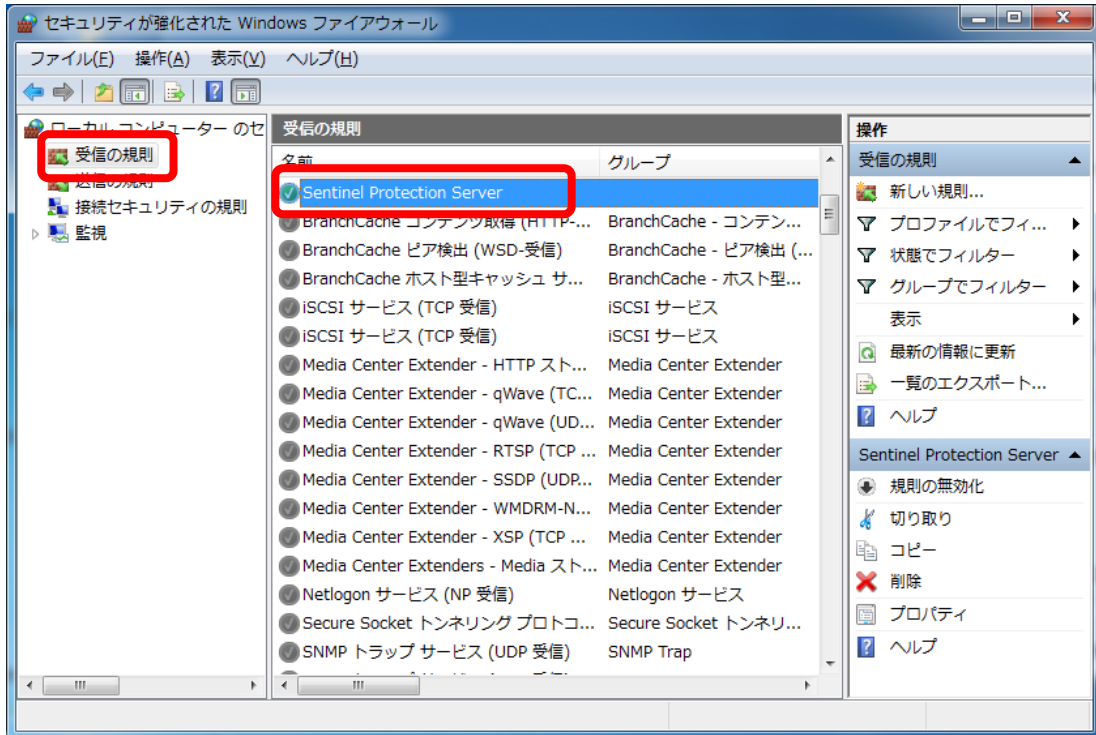
セキュリティの項目から、「Windows ファイアウォール」をクリックします。




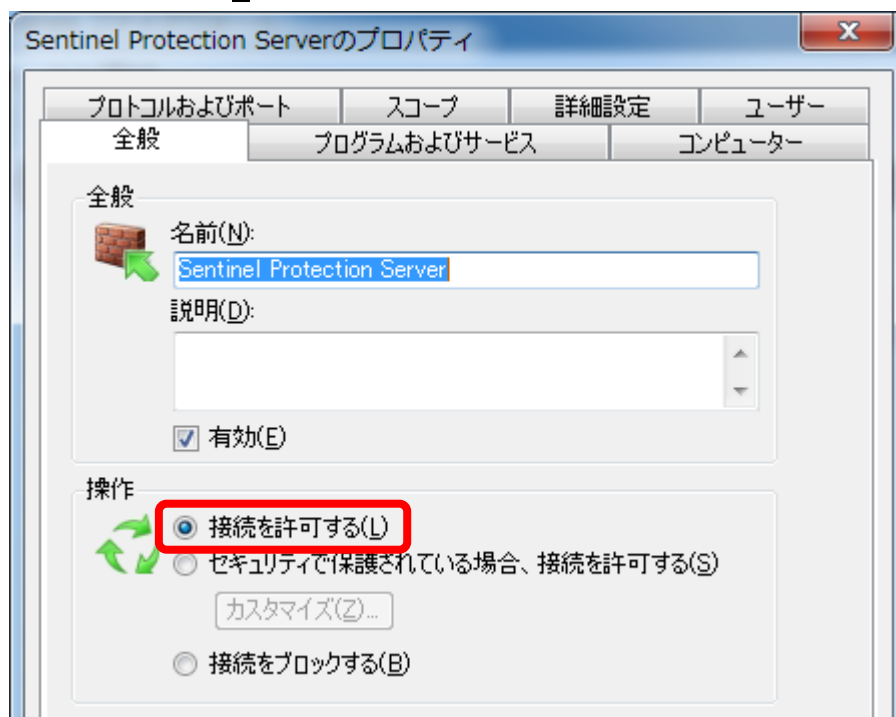
2. 「詳細設定」をクリックします。



- 3.** 【受信の規則】に『Sentinel Protection Server』の文字の右のアイコンが
 マークになっているか確認をします。




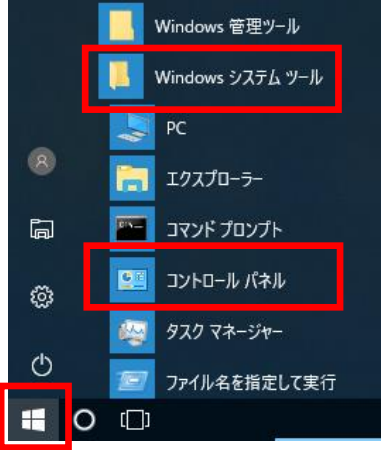
-  チェックが入っていない場合は、ダブルクリックで設定画面を開き
 「接続を許可する(L)」を選択して、「OK」ボタンをクリックします。



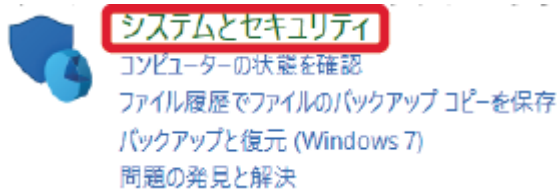
2-1-4 Windows10 の場合

1. 【コントロールパネル】の【Windows ファイアウォール】を開きます。

 コントロールパネルを開くには、スタートメニューの右クリックで表示されるメニューから [Windows システムツール]-[コントロールパネル] をクリックします。



「システムとセキュリティ」をクリックします。



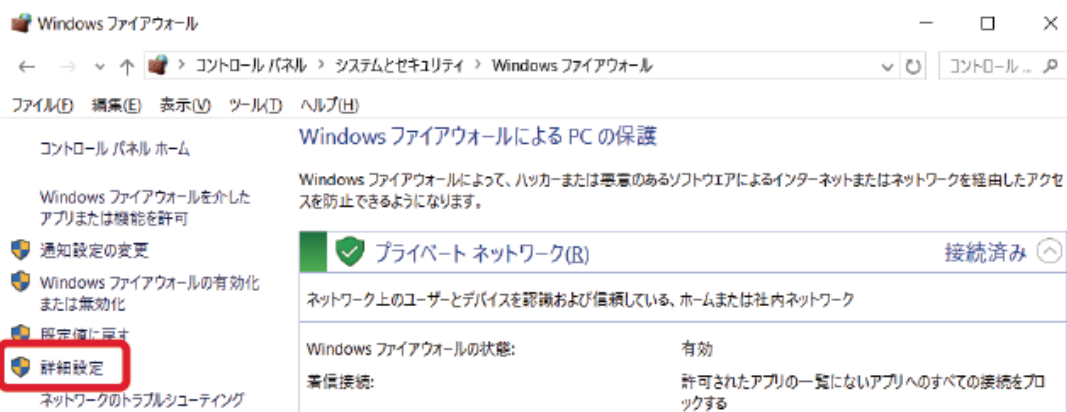
システムとセキュリティ
 コンピューターの状態を確認
 ファイル履歴でファイルのバックアップ コピーを保存
 バックアップと復元 (Windows 7)
 問題の発見と解決

セキュリティの項目から、「Windows ファイアウォール」をクリックします。



Windows ファイアウォール
 ファイアウォールの状態の確認 | Windows ファイアウォールによるアプリケーションの許可

2. 「詳細設定」をクリックします。



Windows ファイアウォール

← → ↓ ↑ コントロール パネル > システムとセキュリティ > Windows ファイアウォール

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ツール(T) ヘルプ(H)

コントロール パネル ホーム

Windows ファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可

通知設定の変更

Windows ファイアウォールの有効化または無効化

既定値に戻す

詳細設定

ネットワークのトラブルシューティング

Windows ファイアウォールによる PC の保護

Windows ファイアウォールによって、ハッカーまたは悪意のあるソフトウェアによるインターネットまたはネットワークを経由したアクセスを防止できるようになります。

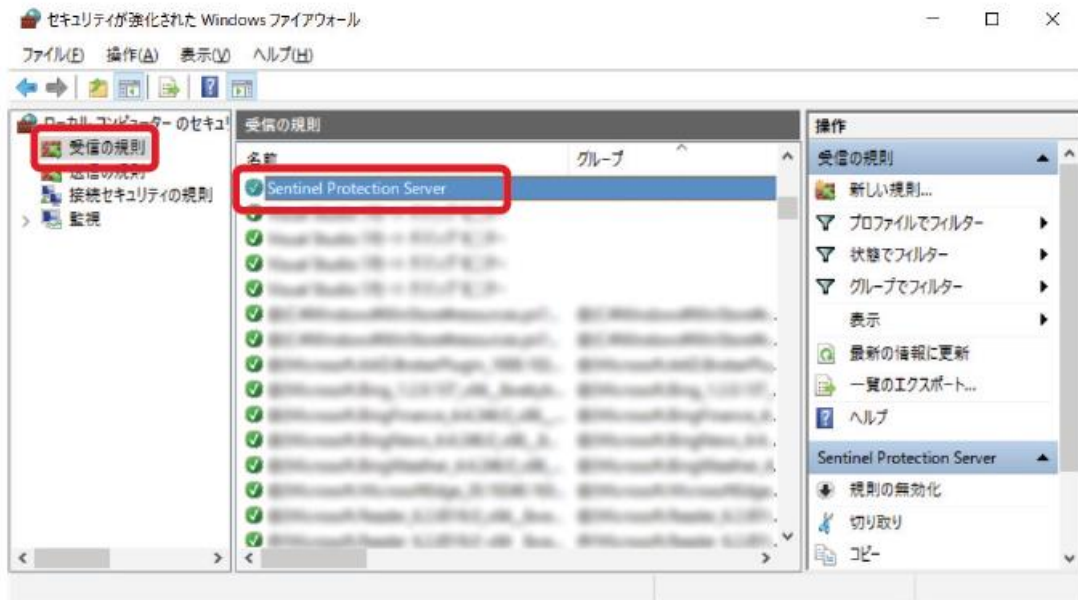
プライベート ネットワーク(B) 接続済み


ネットワーク上のユーザーとデバイスを認識および信頼している、ホームまたは社内ネットワーク

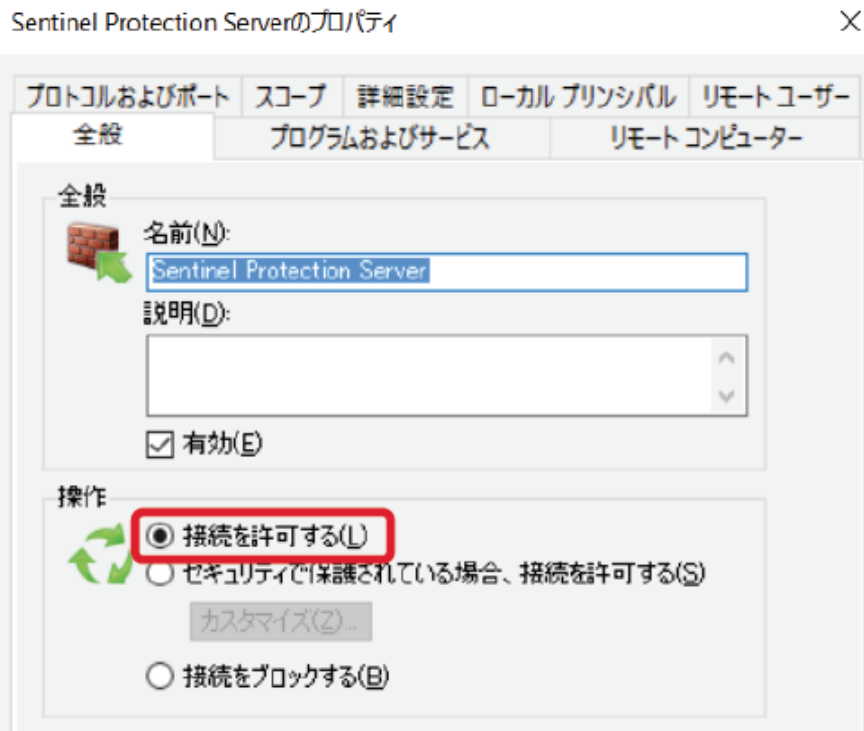
Windows ファイアウォールの状態: 有効

着信接続: 許可されたアプリの一覧にないアプリへのすべての接続をブロックする

3. 【受信の規則】に『Sentinel Protection Server』の文字の右のアイコンが
 マークになっているか確認をします。



-  チェックが入っていない場合は、ダブルクリックで設定画面を開き
 「接続を許可する(L)」を選択して、「OK」ボタンをクリックします。



2-2 Windows ファイアウォール以外の場合……

「ウィルスバスター」等の他のファイアウォールソフトをご使用の場合はネットワークプロテクトで使用するネットワーク上の以下のポート番号をファイアウォール機能で除外しないように設定する必要があります。


※ネットワークプロテクトで使用するポート番号は以下の通りです。


【サーバープログラム用通信ポート】

ポート番号	6001
プロトコル	UDP

【ライセンス管理「Sentinel License Monitor」用通信ポート】

ポート番号	6002
プロトコル	TCP

 「Sentinel License Monitor」にてライセンス管理を行わない場合はサーバープログラム用のポートのみの設定でもネットワークプロテクトの使用は可能です。

 お使いのソフトでの設定方法は、お使いのソフトのヘルプもしくはお使いのソフトのサポートセンターへご確認ください。

3. ネットワークプロテクトの使用



3 ネットワークプロテクトの使用

ネットワークプロテクトドライバのインストール、ネットワークプロテクトの取り付けが完了しましたら、次に本ソフトを使用する各ローカルコンピュータの設定をします。

3-1 ネットワークプロテクトへの接続(初回起動時)

- (1) デスクトップにある本ソフトのアイコンをダブルクリックします。
- (2) 「プロテクトを認識できませんでした」とメッセージがでできます。
- (3) 「ネットワーク上のマシンのプロテクトを使用する」にチェックを入れ、ネットワークプロテクトが取り付けられているコンピュータの IP アドレスまたはホスト名を指定します。また、必要に応じて「タイムアウト時間」※を設定します。(初期設定値は 5 時間)

◆「IP」と「ホスト名」について

1. 「IP」(IP アドレス)
→TCP/IP ネットワーク上でコンピュータを識別するための32bit のアドレス。「192.168.100.100」のように8bit ごとに区切った4つの数字で表記されます。
2. 「ホスト名」
→ネットワーク上の IP アドレスをもつマシンを表す名前のこと。ホスト名を使うことで、IP アドレスを指定しなくてもネットワークプロテクトが使用できます。

※「タイムアウト時間」とは

ソフト立ち上げると、ネットワークプロテクト内の1ライセンスを消費した形になります。そのライセンスは、ソフトをきちんと終了させれば、終了させた時点で開放されまた新たに利用可能となります。

そのライセンスが正常に解放できない(ソフトの異常終了・利用途中での強制電源断・画面を表示したまま放置した場合など…)と、永久に消費したままになります。

それを一定時間アクセスが無い(ネットワークプロテクトに利用中のソフトからの応答がない)場合に、ライセンスを強制的に解放します。

時間は1時間～10時間まで設定可能です。

⚠強制終了等でソフトを利用していないのに、すべてのライセンスを消費してしまった場合、ライセンスを強制的に開放しするしかありません。

詳細は、以下の「困った時のチェック方法」、をご参照ください。


3-2 プロテクト接続方法の変更

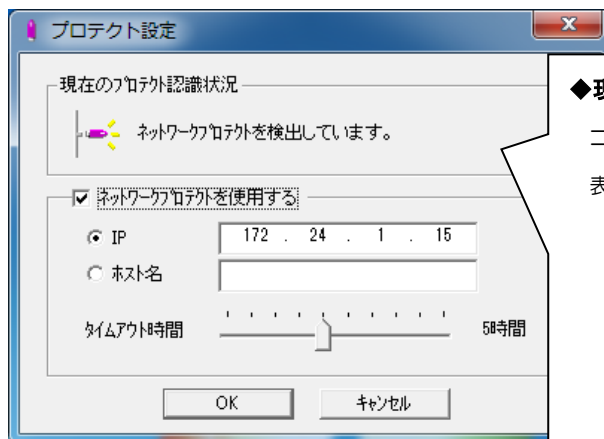
ネットワークプロテクトへの接続後、他のネットワークプロテクトが接続されているコンピュータへ接続先を変更したい。または、ネットワークプロテクトからローカルプロテクトへの変更、タイムアウト時間の変更等、設定を変更したい場合は、環境設定から変更が可能です。

(1) 本ソフトを起動します。

デスクトップにある本ソフトのアイコンをダブルクリックします。

(2) 「基本設定」メニュー内の「環境設定」メニューをクリックします。

(3) 環境設定のツールバー  【プロテクト】ボタンをクリックします。




◆現在のプロテクト認識状況

コンピュータからのプロテクト認識状況を確認できます。

表示は、以下の3種類あります。

1. 「ローカルプロテクトを検出しています。」
→使用中のコンピュータに通常のプロテクトが付いている状態
2. 「ローカルでネットワークプロテクトを検出しています。」
→使用中のコンピュータにネットワークプロテクトが付いている状態
3. 「ネットワークプロテクトを検出しています。」
→ネットワーク上のコンピュータのネットワークプロテクトを認識している状態

(4) 必要な項目を設定変更をして、[OK] をクリックします。

 ここで設定変更した場合は、本ソフトを起動し直してください。

4. ネットワークプロテクトユーティリティ

4 ネットワークプロテクトユーティリティ

プロテクトドライバをインストールすると、ドライバの他に、ネットワークプロテクトを管理・監視するソフトがインストールされます。ここでは、その利用法について説明します。

4-1 サーバー監視モニタツール

このモニタツールは、ネットワーク上にあるネットワークプロテクトを検索し、その状態を表示します。現在どのくらいのライセンスが消費されているか確認できます。

《「Sentinel License Monitor」を使用するための条件》

- ネットワークプロテクトを取り付けているマシンにプロテクトドライバがインストールされていること
- クライアントのブラウザで Javascript が有効になっていること
- クライアントが「Internet Explorer 7.0 以降」 / 「Mozilla Firefox 47.0 以降」 / 「Chrome」 / 「Edge」 を実行していること。
- ネットワークプロテクトを取り付けているマシンで「[TCP][6002]」のポートが使用可能であること。

《起動方法》

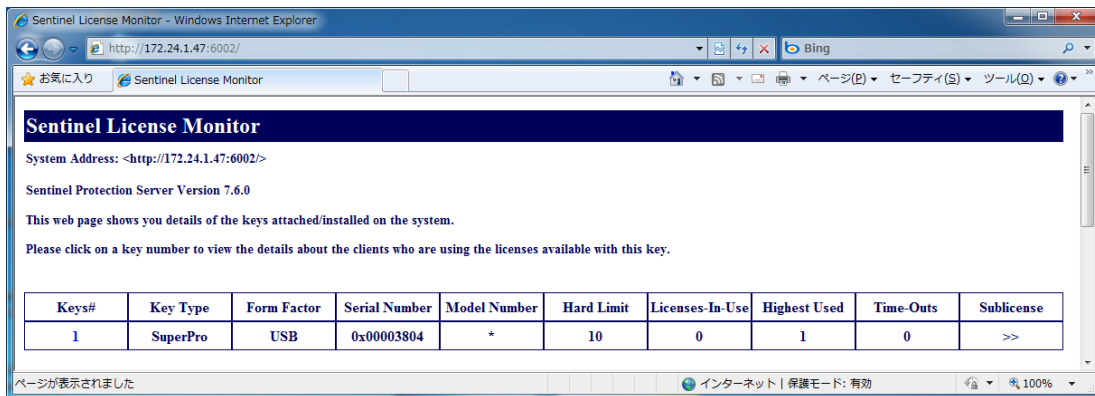
- ① 「Internet Explorer 7.0 以降」 / 「Mozilla Firefox 47.0 以降」 / 「Chrome」 / 「Edge」 を起動します。
- ② 「アドレス」バーにネットワークプロテクトが取り付けられていて、「Sentinel Protection Server Ver.7.1.0 以降」が実行されているマシンの名前か IP アドレスを次のように入力します。

■ 「コンピュータ名：protect」、 「IP アドレス：192.168.1.106」 の場合

⇒ 「http://192.168.1.106:6002」 もしくは 「http://protect:6002」

- ③ ENTER キーを押すと、Sentinel License Monitor のページが開きます。

>>ネットワークプロテクト設定ガイド<<



• Key#(キー番号) :

キー番号は、プロテクトを識別するために付いている番号です。
この番号は特に意識する必要はありません。
(プロテクトが2個ついている場合は、“1”と“2”が表示されます)

• Hard Limit(ハードリミット) :

そのプロテクトで使用できるライセンスの最大数。
ローカルプロテクトの場合は“1”と表示されます。
ネットワークプロテクトの場合はライセンスの最大数です。
この値は、ご契約ライセンス数ではなく、プロテクト本体の登録可能な最大数です。
(ご契約のライセンス数についてはサポートセンターまでお問い合わせください。)

• License-In-Used (現在使用中のライセンス数) :

現在使用中のライセンス数を表示します。

• Highest Used (最大使用数) :

接続されているネットワークプロテクトに対して、同時に消費したライセンスの最大数。
ご契約されているライセンス数を超えることはありません。

• TimeOuts (タイムアウト数) :

ネットワークプロテクトからライセンスを取得したが、
サーバーによってタイムアウトとなったクライアント数です。

※タイムアウトはクライアントがネットワークプロテクトが接続されているサーバーと定期的に通信せず、ライセンスを維持するのに失敗した場合に発生します。

4-2 ライセンスの取り消し

Sentinel License Monitor を使うと、ブラウザ上で現在使用中のライセンスの取り消しを行うことができます。

強制終了等で未使用なはずのライセンスが残ってしまっている場合にも他の使用中のライセンスに影響を与えることなく特定のライセンスを取り消すことができます。

《ライセンスの取り消し手順》

ライセンスの取り消しを行うためにはまずはパスワードの設定を行う必要があります。

既にパスワードを設定済みの場合は③からの手順を行います。

- ① 「Sentinel Protection Server」がインストールされているマシン(ネットワークプロテクトを取り付けたマシン)の「PwdGenUtility.exe」を実行し、ライセンスの取り消し時に必要なパスワードを設定します。

■ 「PwdGenUtility.exe」の場所

⇒<OS ドライブ>:\¥ProgramFiles¥Common Files¥SafeNet Sentinel¥Sentinel Protection Server¥WinNT

※64BitのWindowsの場合は「ProgramFiles」が「ProgramFiles(X86)」になります。



※パスワードは半角英数字で8文字～16文字の間で設定をします。

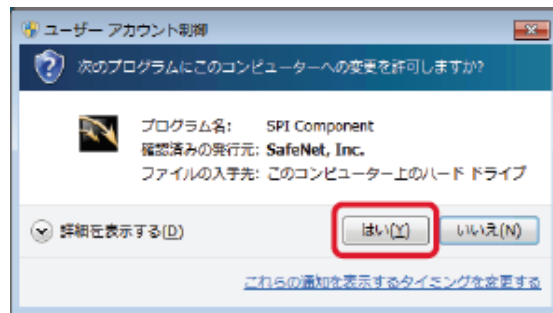
※パスワード設定時に作成される「sntlpass.dat」は移動や削除をしないでください。

「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、
「許可」または「はい」を選択してください。

■Windows Vista / Server2008 の場合



■Windows 7/ Server2008R2 の場合



■Windows 8 /8.1/Server2012/2012R2 の場合




■Windows 10 の場合



- ② 「Sentinel Protection Server」を再起動します。

設定したパスワードを有効にするためには、「Sentinel Protection Server」を再起動する必要があります。再起動方法は以下のように行います。

 「Sentinel Protection Server」を再起動すると、既に使用中のライセンスがキャンセルされた状態になります。設定を行う際はライセンスが使用されていない状態で行うようにしてください。

- (1) "loadserv.exe"を実行してサーバープログラムを終了します。

<OSドライブ>¥:Program Files¥Common Files¥SafeNet Sentinel¥Sentinel Protection Serverにある

"loadserv.exe"を実行し、「Remove Service」ボタンでサーバープログラムを停止します。

※64BitのWindowsの場合は「ProgramFiles」が「ProgramFiles(X86)」になります。

- (2) 次にサーバープログラムを再起動(開始)します。

<OSドライブ>¥:Program Files¥Common Files¥SafeNet Sentinel¥Sentinel Protection Serverにある

"loadserv.exe"を実行し、「Install Service」ボタンでサーバープログラムを開始します。

※64BitのWindowsの場合は「ProgramFiles」が「ProgramFiles(X86)」になります。

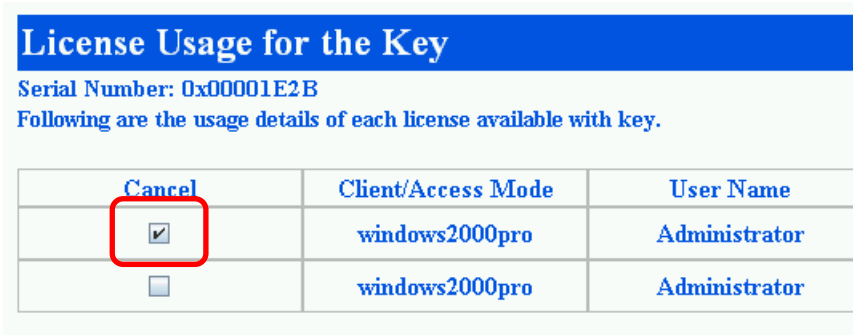
※上記方法以外にもサーバープログラムがインストールされたマシン自体の再起動でも構いません。

- ③ [4-1.サーバー監視モニタツール]の手順でブラウザの起動します。

- ④ ライセンスの確認・取り消しを行いたい「Keys#」の番号をクリックします。



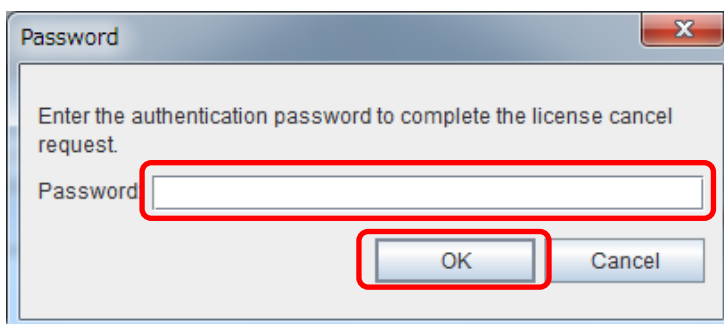
- ⑤ ライセンスの利用状況が表示されます。
取り消したいライセンスの「Cancel」のチェックボックスにチェックを入れます。



- ⑥ 画面下にある「Cancel License Session」ボタンをクリックします。



- ⑦ 手順の①で設定したパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックします。



- ⑧ ライセンスが取り消されます。

4-3 サーバープログラム

サーバープログラムは、ネットワークプロテクトを接続しているサーバー(コンピュータ)上で常駐している必要があります。通常はドライバインストールと同時に常駐するようになります。

《起動方法》

特に起動の操作は必要ありません。

ネットワークプロテクトドライバのインストールと同時に常駐するようになります。

※以下の場所にインストールされています。

<OS ドライブ>:\ProgramFiles\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel Protection Server

※64Bit の Windows の場合は「ProgramFiles」が「ProgramFiles(X86)」

《手動での停止・起動の方法》

ライセンスが開放されない等の理由で、サーバープログラムを一時終了させなければならない場合は、以下のいずれかの方法で手動停止できます。停止後、再度起動させてください。

(1) "loadserv.exe"を使用する。

①上記のインストール場所にある"loadserv.exe"を起動します。

「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、
「許可」または「はい」を選択してください。

■Windows Vista / Server2008 の場合



■Windows 7/ Server2008R2 の場合



■Windows 8 /8.1/Server2012/2012R2 の場合

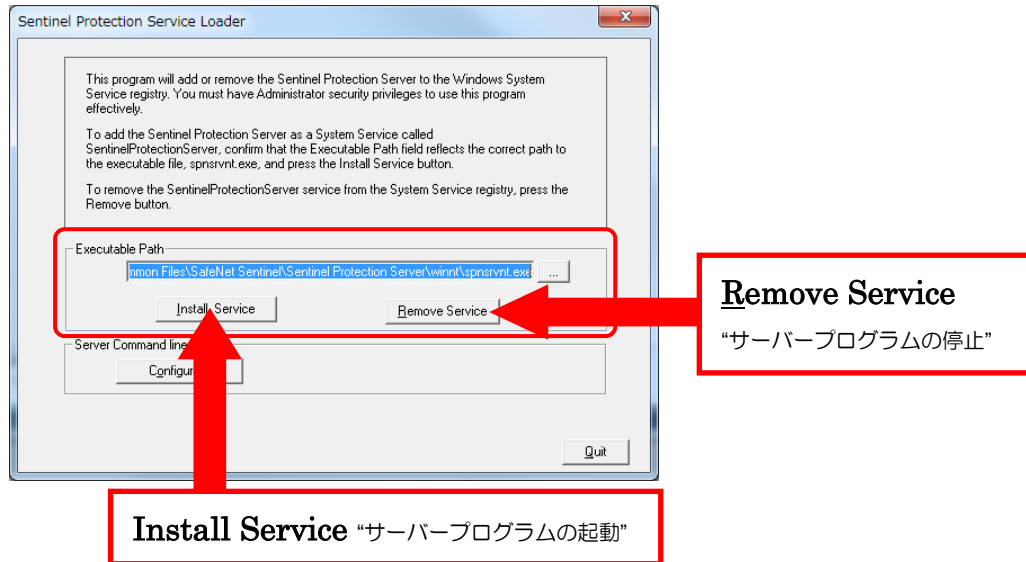


■Windows 10 の場合



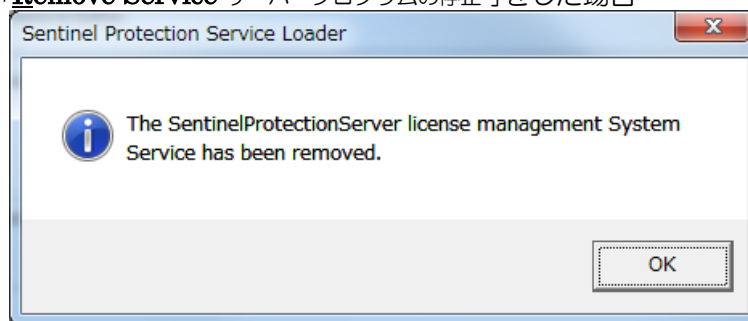
>>ネットワークプロテクト設定ガイド<<

②Executable Pathに「…¥winnt¥spnsrvnt.exe」となっているのを確認(異なる場合は横の”...”ボタンを押し、設定してください)をして、停止の場合は「Remove Service」を、再度起動する場合は、「Install Service」を押してください。

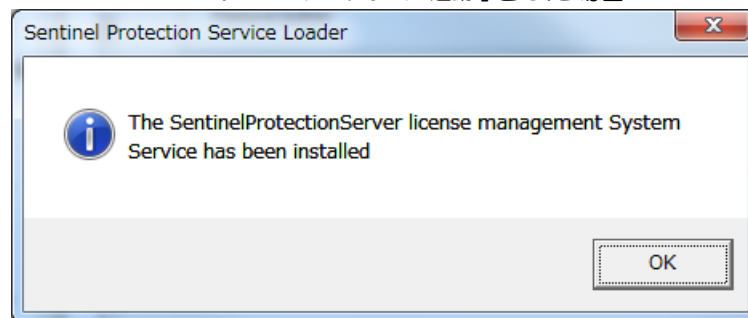


③確認メッセージが出てきますので、[OK] をクリックします。

「**Remove Service** “サーバープログラムの停止”」をした場合



「**Install Service** “サーバープログラムの起動”」をした場合



④設定が変更されたら、自動的にウィンドウが閉じます。

5. 困った時は・・・




5 困ったときは・・・

5-1 困ったときのチェック方法

	内容	チェック項目
1	<p>ソフトを起動すると「プロテクトが見つからないか、製品 No が登録されていません」とメッセージが出る。</p>	<p>■プロテクトはしっかり接続されていますか？ ■ネットワークコンピュータ上のネットワークプロテクトを利用する場合ネットワークプロテクトの設定ができていません。設定を確認してください。 (1-2 ネットワークプロテクトの設定参照) ■プロテクトを接続しているポートは正しいですか？ デバイスマネージャーで正常に動作しているか確認してください。 正常に動作していない場合は、接続ポート用のドライバを更新してみてください。 ■プロテクトドライバは、正常にインストールされていますか？ 再度、プロテクトドライバをアンインストールして、プロテクトドライバをインストールしてみてください。 (2.プロテクトドライバアンインストール手順と 1-1 プロテクトドライバインストール手順参照) ■上記の原因ではない場合は、プロテクト自体が破損しているかもしれません。 お近くのサポートセンター又は販売店へお問い合わせください。</p>
2	<p>プロテクトドライバが正常に削除できない</p>	<p>「2-4 プロテクトドライバがアンインストールできない場合」をご参照ください。</p>
3	<p>ソフトを起動すると「SP_INTERNAL_ERROR 内部エラーが発生しました。(送信または受信されたメッセージの暗号化か復号の失敗など)」とメッセージが出る。</p>	<p>■ネットワークプロテクトを認識できていません。以下のことを確認してください。 ■ネットワークプロテクトが接続されているコンピュータは起動していますか？もしくは、ネットワークに接続できていますか？ ■ネットワークプロテクトはしっかりと接続されていますか？ ■ソフトを起動するコンピュータはネットワークに接続できていますか？ ■ソフトを起動するコンピュータのネットワークプロテクトの設定が間違っている可能性があります。設定を確認してください。 (1-2 ネットワークプロテクトの設定参照) ■お使いのコンピュータの「TCP/IP」の設定はきちんとできていますか？ネットワークプロテクトは「TCP/IP」が設定されたネットワーク環境でないと動作しません。ネットワークの設定を、ネットワーク管理者にお尋ねください。 ■上記の原因ではない場合は、プロテクト自体が破損しているかもしれません。 お近くのサポートセンター又は販売店へお問い合わせください。</p>

>>ネットワークプロテクト設定ガイド<<

4	<p>ソフトを起動すると「プロテクトチェックエラー SP_NO_LICENSE_AVAILABLE ライセンスが現在全て使用中です。期限切れになりました。この要求に使用できるライセンスサーバーがありません。」とメッセージが出る。</p>	<p>■ご契約ライセンス数の全てのソフト起動中です。使用していないソフトを終了させ、再度起動をしておしてください。</p> <p>■一定時間使用していなかったため、ライセンスがタイムアウトし、別のソフトがライセンスを使用しています。使用していないソフトを終了させ、再度起動をしておしてください</p> <p> 頻繁にタイムアウトが発生する場合、タイムアウトの時間設定が短いと思われます。時間設定を少し長めに設定してみてください。</p> <p>(1-2 ネットワークプロテクトの設定参照)</p> <p>■上記を確認してもまだメッセージが出る場合は、ソフトやコンピュータの強制終了によりライセンスが開放されていない可能性があります。現在起動しているソフトを一旦終了し、サーバープログラムの停止・再起動を行ってください。</p> <p>(1-3-2 サーバープログラム「手動での停止・起動方法」を参照)</p>
---	--	---



上記のチェック項目を確認・作業しても正常に動作しない場合は、お近くのサポートセンターまたは販売店へお問い合わせください。

※ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気付きのことがありましたらご連絡下さい。
- (4) 運用した結果の影響については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承下さい。

第 1 回発行 2003年 5月 9日	第 7 回発行 2007年 4月 9日
第 2 回発行 2004年 3月 31日	第 8 回発行 2007年 6月 4日
第 3 回発行 2004年 9月 30日	第 9 回発行 2010年 1月 31日
第 4 回発行 2005年 7月 15日	第 10 回発行 2013年 5月 20日
第 5 回発行 2005年 9月 26日	第 11 回発行 2015年 12月 15日
第 6 回発行 2006年 8月 31日	第 12 回発行 2018年 3月 9日

このマニュアルは弊社の許可なく複製・改変を行うことはできません。
